

卵割観察

C1120050 田村義希



観察の背景

卵割りは田村祐妃さまと田村久美子さまに協力していただき、できるだけ日常的に家庭で行われている卵割りを観察した。

ただし、観察しやすさの観点から、高さは40cm、背景は黒に統一した上で、部屋の電気を消し、手元にライトを当てた。

観察は3回行なった。

モデルとモデルの妥当性

観察のモデルには「ローソンセレクト 玉子」を用いて行なった。

モデルは全てGPセンターにて検卵、洗卵、殺菌、選別、包装、検査された均一なモデルであり、一般的なコンビニエンスストア、ローソンにて販売されている商品である。

そして、卵割りを行なっていただいた御二方も普段から利用しているモデルだということで、モデルの妥当性は高いと判断した。

観察記録および分析過程と結果

1回目の観察では卵割りの過程で黄身が割れてしまったため、記録は行わなかった。

2回目の観察では粘度の低い白身が流れ出た後に黄身が流れだした。その後、黄身は加速し、粘度の低い白身を追い越して先に落下した。

3回目の観察では黄身と繋がった状態で粘度の高い白身が流れ出していた。最後に最初同様、粘度の低い白身が殻を伝って流れ出した。

どの記録でも、カラザは黄身と粘度の高い白身を繋いでいた。また、二つに分かれた殻から流れ出るのは粘度の低い白身のみであり、それ以外の部位は割れ目から流れ出していた。

割った直後は「粘度の低い白身、黄身、粘度の高い白身、粘度の低い白身」の順で流れ出し、その後粘度の低い白身と黄身が入れ替わり「黄身、粘度の高い白身、粘度の低い白身」の順で落下したことから、黄身が最も密度が高く、最も大きく加速していることがわかる。